

13. くるみ

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	I Cボルドー66D	散布	-	-	
M4	オーソサイド水和剤80	散布	収穫7日前まで	4回以内	

・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アグロスリン水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
3	アディオンフロアブル	散布	収穫7日前まで	2回以内	
1	ガットサイドS	樹幹の地際部から約1.5mの高さまで塗布	収穫7日前まで	2回以内	
1	スプラサイド水和剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	

・殺虫剤（参考農薬）

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
16	アブロードフロアブル	散布	収穫7日前まで	2回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

品種や気象条件により収穫時期が異なるので、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。
農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

病虫害名	防除時期	防除方法	注意事項
黒斑細菌病	4月下旬～7月上旬	1. I Cボルドー66Dの50倍液を散布する。	1. 雄花先行品種の雄花開花期、または雌花先行品種の雌花開花期から10日間隔で3回、6月以降の梅雨期に20日間隔で2回散布する。
炭疽病	6月～7月	1. I Cボルドー66Dの50倍液、オーソサイド水和剤80の800倍液のいずれかを散布する。	1. 6月以降の梅雨期にI Cボルドー66Dは20日間隔、オーソサイドは14日間隔で散布する。 2. 被害果は伝染源となるので見つけ次第取り除いて土中に埋める。
シロテンクロマイコガ（クルミミガ）	（第1世代） 6月上旬～7月中旬	1. 6月中旬頃から落果を集めて焼却、又は土中深く埋没する。 2. 第1世代幼虫を対象に、アディオンフロアブル1,500倍液を6月上旬及び6月中下旬頃に散布する。	1. アディオンは蚕毒と魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
	（第2世代） 8月上旬中旬		

病 害 虫 名		防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
コウモリガ		5月～9月	1. 園内、園周辺の雑草を常に刈り取り清潔にしておく。幼虫の寄生を認めたら虫孔から針金を挿して殺す。 2. ガットサイドS原液を地際部から約1.5mの高さまで塗布する。	
ケムシ類	クスサン	休 眠 期	1. 越冬卵塊を除去する。	
		5月～6月	1. 若齢の群生幼虫を分散前に捕殺する。 2. スプラサイド水和剤1,000倍液を散布する。	1. スプラサイドはボルドー液などアルカリ性薬剤との混用は避ける(効力低下)。
	アメリカシロヒトリ	(第1世代) 6月中下旬	1. 初期発見につとめ、群生幼虫を分散前に捕殺する。 2. スプラサイド水和剤1,000倍液、アディオンフロアブル1,500倍液、アグロスリン水和剤2,000倍液のいずれかを散布する。	1. アグロスリン、アディオンは蚕毒と魚毒に特に注意する(特別指導事項参照) 。 2. スプラサイドはボルドー液などアルカリ性薬剤との混用は避ける(効力低下)。
		(第2世代) 8月中下旬		
トサカフトメイガ		7月～8月	1. 初期発見につとめ、群生幼虫を分散前に捕殺する。	
ノシメマダラメイガ (ノシメコクガ)		収 穫 直 後	1. 収穫果は洗浄して完全に乾燥させる。	
クワシロカイガラムシ		(第1世代) 6月上旬	[参考農薬] 1. アブロードフロアブル1,000倍液を散布する。	
		(第2世代) 8月上旬		

【総括注意】

1. スプラサイドは蚕毒が強いので注意する。
2. オーツサイド、ボルドー(硫酸銅)は魚毒が強いので注意する。